

本年度の重点目標	「生徒が安心して学ぶことができる、安全で活力ある学校づくりを目指す」 (1) 生徒一人ひとりを理解し、個々に応じた粘り強い指導に当たり、全職員が協力して社会へつなぐ役割を果たす。 (2) 心豊かな人間力をもった人材の育成を図る。 (3) ICT機器を活用した教育活動の推進、教科の特性に応じた効果的な利用方法について情報共有を図るなど、教職員の指導力向上に努める。 (4) 通級指導の充実・発展を図る。 (5) 不祥事を他人事とせず、教職員一人ひとりが自分自身の問題として意識する。 (6) 教職員の多忙化解消に向け、相互の協力体制を強化し、協働して業務に当たる。			
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項（達成基準を含む）	中間評価
防災 （総務部）	避難経路の周知確認	防災講話や避難訓練を通して、自ら意識をもって安全に避難できる情報や知識をつける指導を推進する。	地震・火事の場合について避難経路を理解している。 A：生徒が避難経路を80%以上理解している B：生徒が避難経路を50%以上理解している C：生徒が避難経路を30%以上理解している D：生徒が避難経路を30%未満理解している	前期に防災講話を行い、後期に避難訓練を予定している。緊急連絡表の生徒の状況の情報を配布し、生徒が主体的に安全に避難する方法などを発信していきたい。
学習指導 （教務部）	外国籍生徒へ対する日本語指導の充実	学習言語である日本語の理解度を高めるための指導を推進する。	日本語指導の充実を図る。 A：80%の生徒が日本語能力検定4級に達する B：65%の生徒が日本語能力検定4級に達する C：50%の生徒が日本語能力検定4級に達する D：35%の生徒が日本語能力検定4級に達する	1年生28名が日本語教室に参加し、2、3年生18名が日本文化理解を受講している。日本語能力試験4級以上のレベルに到達するために日本語の学習を継続している。
生徒指導 （生徒指導部）	あいさつ運動の強化	登校時に校門付近に立ち、ローテーションを組んで全職員であいさつ運動を実施する。	自然にあいさつできる。 A：自然にあいさつができる生徒が90%以上 B：自然にあいさつができる生徒が80%以上 C：自然にあいさつができる70%以上 D：自然にあいさつができる70%未満	概ね多くの生徒が自然にあいさつができる。教員があいさつ運動の意義を理解し、多くの生徒に声をかけながら日々の生徒の変化を気づける体制を整えることが課題である。
生徒会活動 （生徒会部）	生徒主体の学校行事の運営	生徒会執行部が行事を通して自己の成長を図る。生徒の意見を柔軟に取り入れ各種行事の運営に努める。	アンケート等を活用し、生徒の意見を集約する。 A：行事を通して75%の生徒が成長することができた B：行事を通して60%の生徒が成長することができた C：行事を通して50%の生徒が成長することができた D：行事を通して40%の生徒が成長することができた	球技大会等を通じて生徒の成長を促すことができた。今後体育大会や文化祭もある。これらの行事に生徒が積極的に参加することでより一層の成長につながるとよい。
教育相談 （教育相談部）	安心して相談できる場所の情報提供	かきつばたの会（親の会）の入会や相談室体制を配布案内したり、SC、SSW、県の相談体制などの情報をきずなネットを通じて提供したりする。	相談ができる場所があることを知ることができる。 A：80%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた B：65%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた C：50%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた D：35%の生徒・保護者が相談場所への理解を深めた	生徒67%、保護者85%が「そう思う」「かなりそう思う」であった。今後も定期的に「一人で悩まないこと」、「相談場所」等の情報提供を行い、援助を受ける力（受援力）への理解を深めていきたい。
保健・清掃指導 （保健厚生部）	進んで健康づくりに努める生徒の育成	アンケート等により生徒の健康課題を把握した上で、状況に応じた健康に関する情報を発信する。	アンケート等を活用し、状況把握と分析に努める。 A：生徒の主体的行動がみられた。 B：生徒の状況に応じた情報を発信できた。 C：生徒の健康課題を把握できた。 D：上記A～Cが実践できなかった	全校生徒を対象に「頭痛と生活習慣の関連」についてアンケートを実施予定。実施後、結果を分析し、生徒が主体的に行動できるための方策を検討、発信していく。

進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の充実と主体的な進路実現に取り組む意識の向上	各学年と連携を図りながら、適切な進路情報を提供する。	個々の生徒の特性に配慮しながら進路学習を進める。 A：具体的な進路を検討できる生徒が90%以上 B：具体的な進路を検討できる生徒が70%以上 C：具体的な進路を検討できる生徒が50%以上 D：具体的な進路を検討できる生徒が50%未満	企業見学やオープンキャンパスへの参加などを促した結果か、生徒・保護者ともに一定の評価をいただいた。一方でわからないという回答も少なからずあり、活動の周知が必要である。
第1学年 (1年学年会)	基本的生活習慣の確立	欠席や遅刻をしない、挨拶を自分からおこなう、自ら身だしなみを整えるなどの良い習慣を定着させる。そのために積極的に生徒にかかわり、促していく。	客観的に自らを評価できる。 A：できている生徒が80%以上 B：できている生徒が60%以上 C：できている生徒が40%以上 D：できている生徒が40%未満	欠席や遅刻が増えている生徒が多々いる。2学期以降で生活が安定するよう働きかけていきたい。身だしなみについても同様である。挨拶に関しては、入学当初より自分からおこなえる生徒が増えているように感じる。引き続き生徒との積極的なかかわりの中で、促していきたい。
第2学年 (2年学年会)	社会へ出ていくための準備として、自信を持てる(自分を信じることができる要素を増やす)ようにしていく。	学年集会等で自信を持つことの大切さ、自信の持ち方などを伝えていく。できていることに対し、自己をプラスに評価し、自己肯定感を持てるようにする。	1年次よりできることが増え、前進できている。 A：自分に自信が持て、自己肯定感が高まった B：できることが増え、確実に前進している C：自信があるとは言えないが、前進できている D：現状維持、または後退している	4割の生徒と保護者が分からないと回答しているが、自信を持つことや、自己肯定感を持つことは、自分自身の考え方によるところが大きいため、我々ができることは、生徒とともに伴走することである。時間がかかることであり、必ず達成できることでもない。
第3・4学年 (3・4年学年会)	進路実現や卒業後を見据え、自己啓発に励む生徒の育成	4卒クラスの3年時の1年間は、定時制高校ならではの強みである。この1年間で、個々の進路目標に応じた具体的な活動ができるよう促してゆく。	個々の進路目標に応じた具体的な活動ができている。 A：できた生徒が80%以上 B：できた生徒が60%以上 C：できた生徒が40%以上 D：できた生徒が40%未満	具体的な活動を行う夏休み前の調査であったため、生徒の実感が薄かったのであろう。年度末の調査結果を俟ちたい。教員、保護者はアンケート結果からも活動内容を理解できているようだ。
いじめ防止対策の推進	学校いじめ防止基本方針に基づいたいじめ防止に係る取組の充実	アンケート調査等を利用していじめの早期発見をする。いじめの発見・通報を受けたら「いじめ防止・対策委員会」にて組織的に対応する。	いじめの早期発見等に全職員で取り組む。 A：いじめの重大事態が0件 B：いじめの重大事態が1件 C：いじめの重大事態が2件 D：いじめの重大事態が3件以上	現在、いじめの重大案件は0件である。生徒指導部のアンケート調査や担任面接などを通して、効果的にいじめの早期発見に努めている。
勤務時間の適正な管理	長時間労働による健康障害の防止	1か月の時間外労働が45時間を超える教職員に対して、そのつど面接指導の希望の有無について確認を行い、教職員の健康障害防止に努める。	校務の精選・削減をし時間外労働時間を減らす。 A：時間外労働時間45時間以上が0名 B：時間外労働時間45時間以上が1名 C：時間外労働時間45時間以上が2名 D：時間外労働時間45時間以上が3名	施錠時間を早め、職員への計画的な仕事の従事を促している。繁忙期に校務を1人で抱えないように分掌、学年、教科等組織で行えるよう助言していく。